

中医鍼灸セミナー

2025/01/26（日） 上海中医薬大学附属日本校 陳 雷

一、経絡についての概論

（一）経絡の定義

人体の重要な組織であり、気血を全身に運行し、臓腑を始め全身の各組織や器官を繋がる通路システム（ネットワーク）である。

（二）経絡の効用

1. 生理機能（平常、健康の場合）
 - ①全身各所を繋がる。
 - ②気血を上下・内外に運び、栄養する。
 - ③全身各種の機能を調節する。
 - ④刺激の感応を伝達する。
 - ⑤人体のバランスを良くする。
2. 病理機能（異常、病気の場合）
 - ①病邪を上下・表裏に伝播する。
 - ②疾病の原発部位から身体の各部に波及させることがある。

（三）経絡の構成

1. 経絡の分類
 - ①経脈 ●正経（十二） 手三陰三陽 足三陰三陽 皮部・経筋・経別
●奇経（八） 督脈・任脈・帶脈・衝脈・維脈（陰、陽）・蹻脈（陰、陽）
 - ②絡脈 ●大絡(十五) ●孫絡 ●浮絡
2. 経絡の特徴
 - ①十二正経の特徴：●内連臓腑、外接体竅；左右平衡
 - ②奇経八脈の特徴：●臓腑に繋がらない；相互的に絡まない
●正経を統括と補充する。
 - ③絡脈の特徴：●数が多く、走行は不規則、臓腑・経脈・各組織を絡む。

（四）経絡の応用

1. 診察の時の応用 ①疾病場所の判断 ②弁証方法の利用（経絡弁証）
2. 治療の時の応用 ①鍼灸、推拿などの外治法（経絡腧穴）②中薬、薬膳などの内治法（帰経）

二、九鍼及び伝統鍼刺法の紹介

（一）九鍼の名称 鑱鍼・圓鍼・鍤鍼・鋒鍼・鉵鍼・員利鍼・毫鍼・長鍼・大鍼

（二）九鍼の形状

一曰鑱鍼。長一寸六分。頭大末銳。

二曰員鍼。長一寸六分。鍼如卵形。
三曰鍤鍼。長三寸半。鋒如黍粟之銳
四曰鋒鍼。長一寸六分。刃三隅
五曰鈹鍼。長四寸。廣二分半。末如劒鋒
六曰員利鍼。長一寸六分。大如釐。且員且銳。中身微大。
七曰毫鍼。長三寸六分。尖如蚊虻喙。
八曰長鍼。長七寸。鋒利身薄。
九曰大鍼。長四寸。尖如挺。其鋒微員。

(三) 九鍼の臨床応用

鑱鍼者。去寫陽氣。(瀉法、表熱)
圓鍼者。以寫分氣。(瀉法、理分肉氣)
鍤鍼者。以致其氣。(補法、補脈氣)
鋒鍼者。以發痼疾。(瀉法、現在の三棱鍼)
鈹鍼者。以取大膿。(瀉法、破皮消膿)
員利鍼者。以取暴氣。(瀉法、治劇烈病症)
毫鍼者。以取痛痺。(補瀉両用、通經消痹)
長鍼者。以取遠痺。(瀉法、通經消痹)
大鍼者。以寫機關之水也。(瀉法、通利關節消腫)

三、頸椎症の改善における鍼灸療法の弁証論治

●中医学の病証名称：痺証

風、寒、湿などの邪氣が経絡や関節を侵し、関節や筋肉の痛み、四肢の脱力やこわばり、運動障害などを生じる病証である。臨床上は風痺、寒痺、湿痺、熱痺、着痺に分類されます。

(一) 中医弁証

1. 症状 首肩が疼痛 筋肉凝り 首の動きが制限
腕・手・指が痺れ、上肢の動き制限
頭痛 眩暈 吐き気 動悸 発汗 など
2. 診察 ①望診 ②聞診(声) ③問診 ④切診(※脈診)
3. 分析帰納
 - ①病勢緩急 慢性・急性
 - ②病因病機 「気血不足・経絡不通」
 - ③正邪盛衰 実：風寒湿、気滯血瘀 虚：肝腎虚弱・気血不足
 - ④病位表裏 表：五体(肉筋骨脈) 裏：臟腑気血

⑤病性寒熱

※頸椎症の弁証のまとめ

「寒湿証或いは風寒湿証」 「瘀血（気滯）証」 「肝腎虚弱証」

(二) 鍼灸治療

1. 治療原則 総治法：■疏經通絡 行氣活血 ■扶正祛邪

弁証治法：●行痺→祛風邪

●痛痺→散寒邪

●着痺→化湿邪

●虚証→肝腎氣血補益

2. 経絡腧穴処方 ①経脈処方 督脈 任脈

手の三陽経（大腸経 小腸経 三焦経）

足の三陽経（膀胱経 胃経 胆経）

腎経 脾経 肝経

②腧穴処方 ●近部取穴（頸部）

阿是穴 頸夾脊 風池 天柱 大椎 天宗 列缺 合谷

●弁証取穴

■風寒湿証 風府 肩井 曲池 外関

■気滯瘀血 膈兪 肺兪 脾兪 肝兪 血海 気海

■気血不足 脾兪 胃兪 中脘 足三里

■肝腎不足 肝兪 腎兪 命門 太衝 太谿 気海 関元 足三里

3. 鍼灸方法 ●鍼刺法 直刺法 浅刺法 留鍼 瀉血法

●灸法 棒灸・隔物灸・温鍼灸

●拔罐法（吸い玉） 定/移罐法

4. 施療 1. 体位：臥位・座位

2. 補瀉： ●腧穴 補：気血臓腑の腧穴 瀉：祛邪の腧穴

●技法 鍼刺法——提挿捻転 瀉血法

お灸法

拔罐法

●施療時間